

## 卵子提供・代理出産で家族をつくる (第 6 回)

2019 年 1 月 6 日 (日) 13:00-17:00



**卵子提供・代理出産で家族をつくる**

**日 時** : 2019 年 1 月 6 日 (日) 13:00-17:00

**場 所** : 日本科学未来館 海王星ルーム  
東京都江東区青海 2-3-6  
tel.03-3570-9151

13:00-13:30 清水 直子 Shimizu Naoko  
(さくらライフセイブアソシエイツ代表取締役)  
「生殖医療の進歩は選択肢を広げる: 代理出産/卵子ドナー/精子ドナー」

13:30-14:00 澤岨 良心 Takushi Ryoto  
「誰にでも選択肢はあることを知ろう」

14:00-14:30 日比野 由利 Hibino Yuri  
(金沢大学大学院医薬保健学総合研究科)  
「海外での治療、検討すべきポイント」

14:30-16:30 情報交換会

- セミナーへの参加費は無料、どなたでもご参加できます
- 情報交換会へのご参加は当事者のみ  
(1 人につき参加費 1,000 円、お子さんは無料)
- お名前と連絡先を添えて、申し込みをお願いします。
- 席に限りがありますのでお早めにお申し込みください

【申込先】  
金沢大学医薬保健研究域医学系  
日比野由利  
tel. 076-265-2218 fax. 076-234-4233  
hibino@staff.kanazawa-u.ac.jp

### 清水直子 (Shimizu Naoko)

#### 「生殖医療の進歩は選択肢を広げる:代理出産/卵子ドナー/精子ドナー」

生殖医療は日々進歩しており、夫婦間の治療では限界となったケースでも、精子や卵子の提供、代理出産などを利用することによって家族をつくるのが可能になっている。一方、第三者が生殖に関わることや、夫婦以外の人々が生殖技術を利用することに対し、これまで偏見や差別が強固にあった。しかし、画一的な家族、画一的な幸せを追求する時代は終焉しつつある。ひとりひとりの価値観にもとづいた自分なりの幸福を見つける時代になっている。生殖技術は、一人一人の希望を叶えるための、強力な武器となっている。独身キャリア女性のための卵子凍結、性同一性障害の方のための卵子・受精卵凍結、男性同性カップルのための代理出産、女性同性カップルのための精子提供、等々、これま

でに様々なケースのコンサルに携わってきた。いずれも、日本では利用が制約されている。海外ならまだまだ選択肢がある。これらについて、国内では正確な情報が十分ではなく、信頼できる専門家を選ぶ必要がある。

## 生殖医療の進歩は幸せを与える

- ・ 従来の型にははまらないが幸せになる権利がある
- ・ 世界は変わってきており偏見を受容せず自分らしく生きれる社会へ

## 生殖医療の進歩は幸せを与える 卵子ドナーの使用

1. 自分の卵子を使用しない女性の場合
2. 独身男性が子を授かりたい場合  
( → 代理出産との併用)
3. 性同一性障害(MTF)で自分の精子を使用し、子を授かりたい場合 ( → 代理出産との併用)

↓  
同性愛の男性カップルも同様

## 生殖医療の進歩は幸せを与える 精子ドナーの使用

1. 独身女性が子を授かりたい場合
2. 性同一性障害 (FTM) で自分の卵子を使用し、子を授かりたい場合 ( → パートナーの女性に受精卵を移植)



同性愛の女性カップルも同様

### 澤岷良心 (Takushi Ryoto)

#### 「誰にでも選択肢はあることを知ろう」

自分は幼い頃から自分の性別に違和があり、FTM (female to male) の性同一性障害であることがわかった。非常に悩んだ時期もあったが、最終的には女性から男性への性別適合手術を受け、戸籍上、男性となる手続きを行った。将来は、好きなパートナーと結ばれ、家族をつくりたいという希望があった。しかし、当時はあまり情報がなかった。当時、性同一性障害者が生殖技術の助けを借りて家族をつくるという発想は(一般の人、それから当事者の間にも)なかったと思う。インターネットを調べても出てくるのは怪しいエージェントの情報だけだった。それでもやっと、信頼できるエージェントに出会うことができた。そこで、自分の卵巣を摘出する前に、体外受精で卵子を採取し、ドナー精子を使って 3 つの受精卵を作ることができた。その後、パートナーと出会い、正式に結婚。凍結保存しておいた受精卵をパートナーに移植したが、残念ながら、パートナーの妊娠はかなわなかった。そこで気持ちを切り替え、非配偶者間人工授精へと進むことにした。パートナーへの施術は成功し、子を得ることができた。遺伝的なつながりはないが、自分にとってかけがえのない存在だと思っている。しかし、子育てをしているなかで、自分の親としての覚悟を試される場面が多々あると感じている。それでも、こうした形でパートナーや子どもも出会

えたことに感謝している。



「卵子提供・代理出産で家族をつくる」

## 誰にでも 選択肢はあることを知ろう

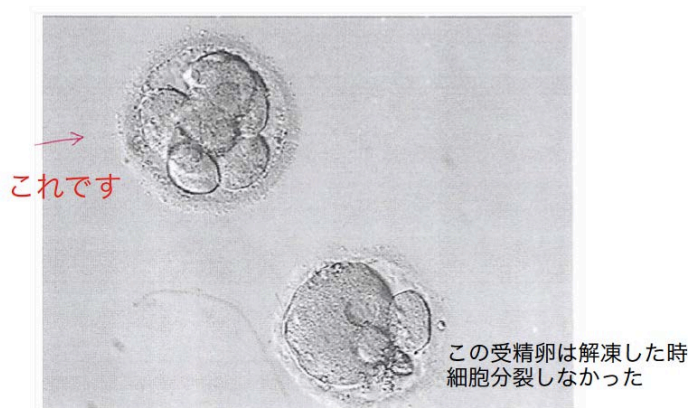
2019年1月6日  
勇気づけのLGBT講演家  
澤岨りょうと

### 受精卵凍結保存に至った経緯（2005年ー2006年頃）

- ・ 子どもを持つ可能性がゼロじゃなかった（家族へのカミングアウト前の心残り）ミスドで悩む日々
- ・ スポーツトレーナーで得た知識を元に受精卵凍結の可能性に気付く
- ・ 代理出産（長野県：諏訪マタニティークリニック）に関するニュースもヒントになった
- ・ インターネットで調べ始める（当時はアメリカと韓国に情報）
- ・ 海外治療の専門会社への問い合わせから返信まで（2006年12月）
- ・ 受精卵凍結保存（2007年6月）

2013年2月

## 受精卵 移植



8

Copyright©Ryoto-Takushi All Rights Reserved.

### 日比野由利 (Hibino Yuri)

#### 「海外での治療、検討すべきポイント」

現在、代理出産はインドやタイを含む東南アジアでは難しくなっており、ロシアやジョージア、ウクライナなど東ヨーロッパで依頼されている。ロシアは本来的に代理母に親権があり、男女カップルの依頼者は避けた方が無難だろう。ジョージア、ウクライナでは男女カップルであれば合法的に代理出産を依頼できる。しかし、代理出産に反対する勢力もあり、法律が変わる可能性もゼロではない。卵子提供はそれより選択肢がはるかに多いが、エージェントが乱立しており、正しい情報を得ることがより重要になっている。卵子ドナーを依頼する際は、匿名なのか、匿名でないのかにも留意してほしい。最近、台湾で卵子提供を受ける人が多いが、台湾ではドナーは匿名であり、(法律が変わらない限り)ドナーを特定する情報を得ることはできない。告知する・しないに関わらず、親がドナーの情報を持っていると安心である。また、プロフィールを見てドナーを選べるサービスもあるが、実祭に指名したドナーから採卵しているかどうか、確認できないケースもあるので注意が必要である。ドナーのすりかえ行為は、以前から指摘されていたが、クリニックやエージェントなどのビジネス優

先の考え方がこうした行為を助長している面があると考えられる。

卵子提供に進む場合、女性側から見て自分の遺伝子ではないということがネックとなりがちである。遺伝を中心とした見方が強くなっていることが背景にある。卵子提供であっても、出産の事実はある、母子間に何らつながりがないというわけではない。母体と胎児は、分子レベルで違いに影響を与えていることがわかっている。子はまず独立した人格であり、遺伝的つながりの有無や、多額の費用をかけて卵子提供や代理出産を利用したという事実が、子育てにネガティブな影響を及ぼすべきではない。

## 現在の状況

- **代理出産:** インドや東南アジアでは難しくなっている。ロシアやジョージア、ウクライナなど東ヨーロッパで依頼されている。ウクライナとジョージアは婚姻した男女カップルのみ。
- **卵子提供:** 選択肢は多い。エージェントが乱立。現地でドナーを依頼するケースのほか、日本人ドナーを依頼するケースや、第三国からドナーを連れてくるケースなど様々な方法がある。

## 台湾での卵子提供 メリット・デメリット①

- 2013年、日本のメディアが報じたことをきっかけに台湾で卵子提供を依頼する日本人が増えた。アジア系のドナーが得られる
- 卵子提供を求める海外の患者は歓迎されている
- 日本から近く、基本的に親日の国
- 街中でも簡単な日本語が通じる
- 日本語人材も豊富

